代名詞の指示語の理解と読みの力に関する一研究

英語科　小澤信治

1．はじめに

テキストは、バラバラなセンテンスの集合体ではない。個々のセンテンスが、相互に関連し合い、影響を与えながら、その内容は構成されている。単語も、一般的には、センテンスの中で、「機能」と「意味」が定まるが、さらに、テキストの中において使われることによって、はじめて具体的意味内容が明確化するものも多い。たとえば、

Have you ever seen the Shakespeare's play?

I play soccer after school every day.

の２つのセンテンス中のplayは意味も機能も違う。

また、thing, something, do, there, so, he, she etc.の単語の具体的意味は前後のセンテンスがなければわからないし、当然、これらの単語を含むセンテンス全体の意味も、文脈に依存することになる。

このように、テキストとは、単語またセンテンスから成り立つ有機的集合体である、と言えるかもしれない。

また個々のセンテンス毎の、バラバラな理解がそのままテキスト全体の理解につながらないことは、よく指摘を受けるところである。このような時に、前後の文脈の中でセンテンスの意味を捉え直すように、と指導することになる。一つのセンテンスの意味が言えても、そのセンテンスが何を言おうとしているのかわからない生徒も多い。

個々のセンテンスの構造を伝統文法は実によく研究解明しており、学校で英語を学ぶ生徒にとって、また教える教師にとっても、その基本的知識はなくてはならないものである。オーラルコミュニケーション重視の中にあっても、英語を第２言語として学ぶものにとって、伝統文法の基本的知識が必須であることは変わりないと思う。ただセンテンスレベルの理解を超えて、ある程度の長さをもったテキストを、読み、理解するためには、テキスト全体を対象にした文法現象を学ぶ必要がある。そのようなわけで、テキスト全体を把握するための談話文法の指導が英語教育の中で、昨今注目されてきているわけである。

高校英語になると教科書で取り上げる題材のテキストの長さが、中学時に比べてかなり増える。特にリーディングの授業ではかなりまとまった量と内容を持つ文章を扱うこととなる。読みの指導を展開していく上で、談話文法の指導として、代名詞や代用、省略、接続詞といった談話現象や、またパラグラフの構成などの談話構造に注意を払った指導をしていく必要が痛感される。平成８年度の本校の英語入試問題の分野別の正解率を計算すると、リスニングが８４.５％、文法・構文が６３.５％であるのに対して、リーディング問題では２２.０％であった。出題した文章の語彙レベルは５００語程度で、きわめて平易な英語であるが、文章全体の長さが６００語以上あり、内容を読み取ることが困難だったためか、あるいは途中で読むこと自体を諦めたために、このような低い正解率になったと思われる。何れにしても、長い英語の文章を読むことにあまり慣れていない生徒が多い、という実態が浮かび上がった。

Halliday and Hasan(1976)によると、センテンスとセンテンスのつながり（結束性－cohesion）に影響を持ち、テキスト全体に意味的なまとまりを与えるものとして、接続詞、代名詞、代用、省略etc.を挙げている。このような要素の働きを十分に理解していないと文章の流れについていくことができずに、内容理解も困難になると思われる。

本研究では、最初にテストＩを実施し、生徒が代名詞、省略語をどの程度正しく理解しているかを測定した。次に、テストⅡではテストＩと同じ生徒に英文をいくつか読んでもらい、内容理解の力を測定し、テストＩで得られた結果と有意な相関があるかどうかを検定した。

2．テストＩ

目的

与えられた英文に出現する代名詞の指示語を正しく把握しているかどうか、また省略されている語は何かを理解できているかどうか、さらに英文の流れを見失わないで内容の持つ面白みを的確に理解しているかどうかを測定する。

被検者

本校の高校1年生、2クラス、計77名の生徒。

材料と手順

開隆堂の平成2年度版英語I教科書のEnglish Now Iから採った「A Horror Story」を読材料に用いた。（本校では現在この教科書は使用していない。）問い1（全部で16問）は代名詞の指示語を問う問題、問い2（全部で3問）は省略語を答えさせる問題、問い3は文章を的確に読み、内容理解ができているかどうかを問う問題として加えた。未習の単語には訳語をつけた。実際のテストは資料として末尾に載せてある。

英語Iの時間を利用して実施し、制限時間は30分とした。

結果と分析

問い3までの全20問に通し番号をつけ、それぞれの正解数と誤答傾向を分析した。生徒77名の各小問に対する正解の合計と正解率を表1に示す。

1問から16問は代名詞の指示語を問う問題、17問から19問は省略語を答える問題、20問は英文全体の代名詞、省略語を理解した上で、その流れを把握していないと答えられない問題である。

表1

	1問	2問	3問	4問	5問
正解総数	75	65	51	47	69
正解率	97.4	84.4	66.2	61	89.6

	6問	7問	8問	9問	10問
正解総数	61	63	64	68	50
正解率	79.2	81.8	83.1	88.3	64.9

	11問	12問	13問	14問	15問
正解総数	46	63	47	45	28
正解率	59.7	81.8	61	58.4	36.4

	16問	17問	18問	19問	20問
正解総数	25	15	10	9	4
正解率	32.5	19.5	13	11.7	5.2

＜代名詞の指示語の理解＞

1問から16問（問い1）を正解率に応じて、便宜的に3群に分けた。正解率が高かったのは1，2，5，6，7，8，9，12の各問のグループであった。特に1問はほとんど全員が正解している。正解率が中ぐらいのグループに入るのは3，4，10，11，13，14の各問である。このグループの誤答の傾向を見ていくと、3問(It)ではthe roadやthe graveyardが多く、4問(them)では、Ben and Bobとするものや、複数のものを指しているはずであるのに、Ben, Bob, a bag, the graveyardなど、様々な誤答があった。10問(he)，11問(he)についてはvampireとするものが多かった。13問(They)についてはBen and Bobという誤答が多い。確かに実際にピーナツを数えているのはBenとBobに違いないのであるが、この代名詞が指しているのはtwo vampiresである。14問(him)ではthe policemanとする答えが多かった。正解率が最も低いグループに入ったのは15問(they)，16問(they)である。他と比べて正解率が格段に低くなっていることから、このtheyの指示している語（句）は生徒にとって最もわかりにくいものだったことがわかる。誤答としてはBen and Bobとするものが大部分だったが、two vampiresとするものも少数ながらいた。以上の誤答を分析すると、一般的に、機械的に近くにある語を答えとしてしまう傾向が窺われる。すなわち代名詞がそのすぐ近くの語を指している場合はよいが、離れている場合や、文脈で判断する必要がある場合は理解が難しくなり、誤答が増える。特に15問，16問についてはこのことがあてはまる。この両問に至るまでにtheyは何度か現れて、Ben and Bobやtwo vampiresの意味で使われており、さらに、ここではthe policemanとthe small boyを指すtheyとなるのである。前の文のThe policeman laughed but came along with him to have a look. の中のhim（14問）と、警官と少年2人でやってきたという、文の意味が分かっていないと答えられない問題である。9問(he)，10問(he)，11問(he)は何れも正答はa small boyであるが、代名詞との距離が離れるに従って次第に正解率が低くなっていくのが興味深い。

＜省略されている語の理解＞

17問から19問（問い2）は省略されている語が何かを問う問題であるが、正解率は代名詞の指示語の理解に比べても著しく低い。この問題がわからないと本文の内容理解ができないし、面白味もわからないであろう。第20問目の問いにも答えられないはずである。誤答で特に多かったというものはなく実に様々で、わからずに空欄のまま提出した生徒もかなりいた。英語の文章を読み進めていく上で必要な省略語の理解がかなり不足していることがわかった。前後関係で意味の分かる語は省略して、繰り返さないという、いわゆる言語の経済法則と呼ばれるものは、英語にもあるわけで、何が省略されているかわからないと、文章全体の内容の理解が困難になるのはむしろ当然と言える。

＜英文全体の理解＞

２０問（問い３）に正しく答えるには代名詞の指示語を理解するとともに、英文の流れを見失わずに読み進めること、特に、問い２のtwoの後に省略されている語を的確につかむ必要がある。BenとBobとの会話の中で使われているtwoの意味しているもの(２つのpeanuts)と、その会話を立ち聞きしている警官と少年が誤解してしまったtwoの意味(自分たち２人)の違いを理解しないと答えられない問題である。

７７名中、適切な答えを書いた生徒はわずか４名であった。この問いは問い１、問い２の理解、特に問い２の理解を前提としており、生徒にとってきわめて難しい問題であることがわかる。誤答としてはtheyの指示しているものを取り違えたもの、すなわちBenとBobが逃げたとしてしまったものや、あるいは単に吸血鬼が出たとか、怖かったためとしか書いておらず、two peanutsと少年と警官２人の関係についてわかっていないものなどである。解答欄が空白のものもかなり多かった。代名詞の指示語や省略語の理解が不十分なため、正解に至る生徒がほとんどいないという結果になったものと考えられる。

この問題に正しく答えられないならば、この物語のおもしろみを理解しているとは言えないであろう。代名詞や省略語の理解が深く読解に関わっていることを示唆していると言えよう。

３．テストⅡ

目的

生徒に英語の文章をいくつか読ませ、True or False (TF)形式の設問への答えを求めて、生徒の読解の力を示すものとして得点化した。そして、この結果とテストⅠの結果との相関を見ることにした。

被検者

本校の高校１年生、テストⅠを実施したのと同じ２クラス、計７７名の生徒。

材料と手順

L. A. Hillシリーズから Introductory Steps to Understanding(750 - headword level), Elementary Steps to Understanding(1000 - headword level), Intermediate Steps to Understanding(1500 - headword level) の３冊から２つずつ英文を選び、計６つの英文を出題した。各英文について、ＴＦQuestion６つに答えるように求めた。Questionを一部変えたものもある。意味をとるのが難しいと思われる単語には訳を付けた（各文１，２語程度)。

英語Ⅰの時間を利用して実施し、制限時間は３５分とした。

結果と分析

与えたタスクが果たして読解の力をどの程度正確に測定できるのか、単一のタスクで十分なのかどうか、またそもそも読解力とは何か、と問題を投げかけても、そう簡単に答えられるものではない。また読材料の種類によっても読みの速さや内容理解の程度は大きく変わり得る。

読解力を測定するタスクとしては、TFの他、英文和訳、Q&A、穴埋め問題、内容要約問題、クローズテスト、文の並べ替えや、筆者がテストⅠの問い３に出題したような理由を説明させる問題など、様々な形式がある。今回のテストⅡではTFによって得点化した数値を、生徒の読解力を示す一つの指標として用いたということである。

＜英文別の正解率＞

６つの英文にそれぞれ６つのTFがあるので、全部で３６個のTFに答えることになる。表２に７７名の英文別の正解総数と正解率を載せた。head - word levelは英文１，２が７５０、英文３，４が１０００、英文５，６が１５００である。head - word levelが上がるにつれて正解率が下がる結果とはなっていない。読材料の難しさは語彙も一つの要因であろうが、内容によって大きく左右されるものと考えられる。

表２

	英文１	英文２	英文３	英文４	英文５	英文６
正解総数	329	302	366	307	243	304
正 解 率	71.2	65.4	79.2	66.5	52.6	65.8

＜相関係数の計算＞

テストⅠ、テストⅡの両方のテストとも受験した生徒数は７６名であった。これらの個々の生徒について、それぞれ、テストⅡにおける正解数（満点は３６点となる）と、テストⅠにおける代名詞の指示語を答えさせる問題（問い１、すなわち１から１６問）への正解数（満点は１６点になる）を求め、７６組のデータを使って、

両者の相関係数を算出した。

計算の結果得られたピアソンの相関係数は$r=0.607$, $df=74$　となり、1％水準で有意な相関があることがわかった。

テストⅠの結果から予測できたように、代名詞の指示語の理解と読解の力とは密接に関係していることが本研究の検定結果からも裏付けられた。

4．Reading指導への視点

英語では代名詞が多用される。個々の代名詞が何を指しているかを理解しながら読み進むことは、読解の過程において欠かすことができない（実際には、その過程は、ほとんど無意識化したものだろうが)。テストⅠの結果、生徒が持っている、代名詞の指示語や省略語の理解はかなり不十分なものであることがわかった。機械的に、代名詞の近くにある語（句）を指示しているとしたり、複数のものを指す代名詞なのに、単数の語（句）を指していると考えたりしている。こうした不十分な理解が、文章を読んで、その内容を捉えていく上での大きな妨げになっていると考えられる。テストⅡで測定した生徒の読みの力が、代名詞の指示語の理解と高い相関関係にあることがこのことを示している。代名詞の指示語をよく理解できていない生徒は、文章の内容を読み取る力に弱いのである。英語の代名詞や代用語、省略、接続詞、冠詞といった談話現象や、さらには談話構造をReadingの授業の中で意識的に取り上げ、指導していくことが、生徒の読解力を高めるためには不可欠であると思う。

5．まとめ

テストⅠでは生徒が代名詞の指示語や省略語をどのように理解しているかを分析検討し、得点化した。テストⅡでは同じ生徒に読解テストを実施し、テストⅠの代名詞の理解度との相関を求めた。両者間には高い相関があり、代名詞の指示語の理解と読解の力とが密接に関連していることの統計的裏付けが得られた。

引用・参考文献

Halliday, M.A.K. and R. Hasan (1976) Cohesion in English, London: Longman

Hill,L.A.(1980)Introductory Steps to Understanding Oxford University Press

Hill,L.A.(1980) Elementary Steps to Understanding Oxford University Press

Hill,L.A. (1980) Intermediate Steps to Understanding Oxford University Press

岩原信九郎 (1965)「教育と心理のための推計学」日本文化科学社

金谷　憲（編著）(1995)「英語リーディング論」河源社

佐藤秀志、他(1990)「English Now Ⅰ」開隆堂

資料

英語実力テスト

次の英文を読んで、問いに答えなさい。

It was late at night. Ben and Bob came out of a bar. As they[1] went singing past the graveyard, they[2] found a bag lying on the road. It[3] was full of peanuts. Ben said, "Let's divide them[4] up. "

"All right," said Bob.

Ben picked up the bag and was going into the graveyard. Then he[5] dropped two[a] by the gate. "You[6]'ve dropped two," said Bob. "We[7]'ll come back for those[b] later," said Ben. They[8] went in, and started counting out the peanuts.

A little later, a small boy came running along the road. He[9] had just seen a horror movie, and his head was full of vampires and dead bodies. As he[10] came near the graveyard, he[11] heard a voice saying, "One for you, and one for me....."

The boy turned and ran. He[12] found a policeman and said, "There are two vampires in the graveyard. They[13] are counting out dead bodies." The policeman laughed but came along with him[14] to have a look.

By the time they[15] got to the graveyard, Ben and Bob had finished counting. The boy and the policeman heard a voice say ; "And don't forget the two[c] by the gate."

And they[16] both ran.

graveyard 墓場, divide 分ける, vampire 吸血鬼

問い１.

下線部（1～16）の代名詞の指している語（句）を文中から探し、解答欄に書きなさい。

〈例.〉次の英文の中で、下線部の代名詞はいずれも John Smith を指しています。

John Smith lives in New York City. He likes jogging and he thinks that jogging is good for him. So he jogs two times a week.

問い２.

下線部（a～c）の後に省略されている語を文中から探し、解答欄に書きなさい。

問い３.

最後の文が And they both ran. となっているが、どうしてこのような反応を示したのか、その理由を本文に即して説明しなさい。